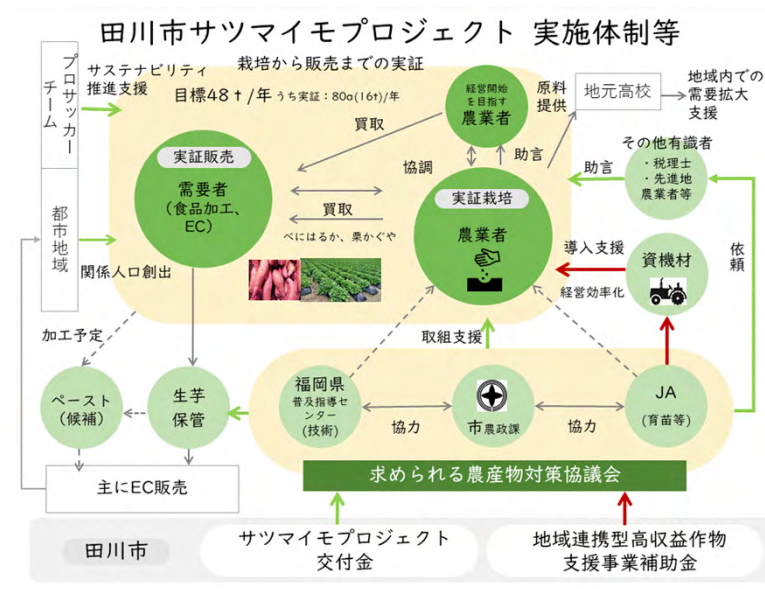


申請者	福岡県直方市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,917,026千円 (1,091,380千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・JR直方駅周辺に点在する文化施設・歴史資源を核に、「花とSLのまち・のおがた」として中心市街地一帯の回遊性向上を図る。 ・駅西側エリアの機能向上やSLを活かした広場整備、また関連イベントを展開することにより、交流人口・関係人口の拡大と観光消費の拡大を図る						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 直方駅西側に隣接する文化施設・市立図書館については、機能向上を伴うリノベーションを行い、多世代が集う交流拠点として再生することで、GXの推進や防災機能の強化を図る。あわせて、SLを活かした広場整備および通路の整備等を行うとともに昼夜の賑わいを創出するイベントを展開することで、周辺商店街へ人の流れを波及させ、「観る・集う・滞在する・回遊する」という行動の連鎖を創出し、関係人口の創出と商店街への経済波及効果を狙う。					 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・花とSLのまちバスツアーの運営（委託料）490千円 ○拠点整備事業 ・ユメニティのおがた・市立図書館整備事業 703,117千円 建築工事、機械設備工事、電気設備工事 ※市立図書館分は経費に含まない ○インフラ整備事業 ・広場・屋上通路整備、SL広場整備、特定天井改修 387,773千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①一人当たりの観光消費額（+3,193円） ②ユメニティ、図書館の利用者数（+110,000人） ③ユメニティ、図書館のCo2排出量（▲45,509kg-CO2） ④観光来訪者数（+45,500人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.nogata.fukuoka.jp/shisei/_1235/_2533/_14679.html

事業概要：田川市農業振興ビジョン達成に向けたサツマイモプロジェクト加速化事業

新規

申請者	福岡県田川市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	30,075千円 (11,609千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・近年の気候変動やサステナビリティ等に配慮した需要への高まりに対応する、栽培から販売までの手法確立によるサツマイモの品質向上を通じたブランド化や、農業者と需要者等と連携した加工品創出に取組み、地場産業の付加価値向上を目指す。 ・都市地域とのワーケーションツアー等の開催により、関係人口創出等と併せサツマイモの需要を拡大し、地域経済の拡大を目指す。 ・サツマイモプロジェクトを契機として、稼げる農業モデルを構築し、農業人材不足の解消とともに、本市の人口維持を目指す。						
事業概要・主な経費	【事業概要】 これまでの試験的な取組の結果、近年の気候変動対応した栽培手法や、サステナビリティに配慮した需要の高まりに対応する必要性が判明したため、地域資源（水田、未利用有機物）を活用した栽培方法や廃棄ロス削減に資する販売（貯蔵）手法について、経営規模での実証に取り組む。また、需要拡大や関係人口創出等のため、都市地域とのワーケーションツアーやイベントを開催する。加えて、農業者のサツマイモでの経営自立に向けて、初期に必要な機械導入等を支援する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・栽培から販売までの実証の取組（交付金）5,609千円 ・関係人口創出に関する取組（交付金）1,000千円 ・農業経営独立支援（補助金）5,000千円						
主なKPI	①農業収入額（+17万円） ②サツマイモ生産量（+36 t） ③収穫交流イベント参加者数（+300人） ④人口社会増減数（+36人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.joho.tagawa.fukuoka.jp/kiji0033674/3_3674_52022_up_1c652t6m.pdf

事業概要：柳川ウェルネス・グラウンド整備事業

継続

申請者	福岡県柳川市						初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R10年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	384,481千円 (57,850千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	健康のための運動・交流の場として多目的グラウンドを整備し、地域の人々が自然に集い、地元経済にも貢献する新たな生活拠点を創出する。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 市民の健康増進と運動機会の創出、地域の賑わい拠点として多目的グラウンドを整備する。令和8年度より、グラウンドでウェアラブル機器をレンタルし運動した参加者に対し、地域ポイント「やなPay」を発行する「柳川ウェルネスプロジェクト」を展開。健康行動の促進による将来的な医療・介護費の抑制と、市内商店街等でのポイント利用による地元経済の活性化を図る。また、市外参加者にもポイントを付与することで、交流・関係人口の拡大と地域ブランド力の向上を推進する。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業経費 旧クリーンセンター跡地に多目的グラウンドを整備 ・施設整備費 40,000千円 ・器具等備品整備 8,500千円 ○ソフト事業経費 ・スマホアプリ開発等 6,500千円 ・ウェアラブル機器導入及びレンタルスペースの整備 2,850千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①市民の健康寿命（+0.5歳） ②市健康診断におけるBMI基準値（18.5以上25未満）を超えている者の割合（▲4.0%） ③ウェルネスプロジェクト参加者の平均歩数（5,000歩） ④やなpayポイント発行ポイント数（1,000,000ポイント） ⑤市外在住者グラウンド利用者数（1,800人） ⑥グラウンド年間延べ利用者数（11,000人）						URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年7月公表予定

事業概要：柳川市のしごとをつくる事業

新規

申請者	福岡県柳川市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	51,088千円 (13,588千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	人口減少や少子高齢化により、地域経済の縮小が懸念される中、地元企業のPRや新規産業の誘致等により、雇用機会を創出し、若者の転出抑制と転入促進につなげ、地域経済の活性化を図ることを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 1)学生等向けに市内企業のPRチラシ等の制作やオープンカンパニー等を実施。 2)企業立地フェアへの出展やパンフレットの作成、進出検討企業とのマッチング等、ニーズ把握のためのアンケート調査、企業誘致に向けた講演会等を実施。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 1)中小企業PR等支援事業 ・企業PRチラシ制作（委託料）285千円 ・市内企業のオープンカンパニー等実施（補助金）1,000千円 ・インターンシップ支援（委託料）3,910千円 2)企業誘致推進事業 ・企業立地フェアブース（借上料）517千円 ・トップセールス実施（旅費）300千円 ・企業立地パンフレット作成（委託料）2,338千円 ・進出検討企業とのマッチング等（委託料）4,510千円 ・市内外事業者ニーズ把握アンケート調査（調査費）728千円						
主なKPI	①やなPay加盟店のポイント付与に係る売上高（+80百万円） ②市内本社の特別徴収対象事業所に勤務する市民の数（0人：維持） ③企業誘致件数（+6件） ④新人従業員共同入社・入店式研修講座参加者数（+75人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年7月公表予定

事業概要：水郷柳河「迎える・賑わう」拠点機能強化事業

新規

申請者	福岡県柳川市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	700,870千円 (633,770千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・歩行空間や拠点を整備し、にぎわい創出イベント等のソフト施策と連動させ、滞在時間延長と観光消費の拡大を図る。 ・デジタルマップ整備や駐車場の適正配置により、インバウンドを含む来訪者のストレスフリーな観光体験を実現する。 ・エリアビジョン策定を通じ、官民一体で観光資源を活用し、観光の活気を地域へ還元する持続的体制を築く。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 西鉄柳川駅周辺及び沖端水天宮周辺に親水デッキや高架下駐車場を新設するとともに、多言語・デジタル対応の強化やエリアビジョン策定を行い、観光客の滞在時間延長と消費拡大を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・ウォーカブルなまち実現にむけた交通デザインノート作成(委託料) 7,810千円 ・にぎわいや人流を創出する事業（委託料） 4,000千円 ・多言語デジタルマップの作成 3,300千円 ・公民連携のまちづくりに向けた「まちなかエリアビジョン」策定 13,860千円 ○拠点整備事業 ・水上（親水）デッキ（柳川駅前、沖端）整備工事 35,000千円 ・柳川駅周辺高架下駐車場整備工事 9,000千円 ・にぎわい交流施設 設計委託料 1,000千円、内装工事費 35,000千円 ・多目的屋根付き土俵整備 29,000千円 ○インフラ整備事業 ・西鉄柳川駅周辺及び沖端周辺の修景舗装工事 495,800千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	① 1人あたりの観光消費額（+1,117円） ② 旅行全体に対する満足度（+1%） ③ 西鉄柳川駅の1日平均乗降員数（+724人） ④ 市全体の観光消費額（+40億円） ⑤ 市内宿泊施設における宿泊者数（+2,732人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年7月公表予定

事業概要：地域資源を活用した持続可能な八女市ブランド構築事業

旧制度（推進）

申請者	福岡県八女市	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R9年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	73,053千円 (8,233千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	八女市ブランドの構築・共有が出来ていない、情報発信における地域住民の参画がなされていない、若年層への訴求が不足しているという課題を解決するため、戦略を立てたうえで、分野横断的な情報発信を行っていく。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 市民ライターの養成などを通じて住民自らが継続的に魅力を発信する体制を構築し、地域への愛着（シビックプライド）を育むとともに、若年層や都市圏の潜在層といったターゲットに響く動画や電子雑誌の制作、イベント実施といった戦略的なプロモーションを展開する。この住民参加と戦略的広報の二つのアプローチにより、関係人口の創出と八女市ブランドの定着を目指す。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○住民参加型シティプロモーション事業 住民参加型魅力発信事業の実施（委託料・需用費）3,850千円 ○若年層に向けた八女市の観光・農産物・文化・ふるさと納税・移住定住情報による八女市ブランドのプロモーション 専門誌や機内誌、機内エンターテインメント等の媒体と連携した情報発信(委託料) 4,383千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①八女市の観光入込客数（+730千人） ②八女市の全国魅力度ランキング（▲125位） ③八女市の20代・30代の転入者数（+190人/年） ④魅力発信隊員（市民ライター）による記事発信件数（+185件）		
URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL		https://www.city.yame.fukuoka.jp/shisei/8/chihouseusei/1500000249735.html	

全体概念図



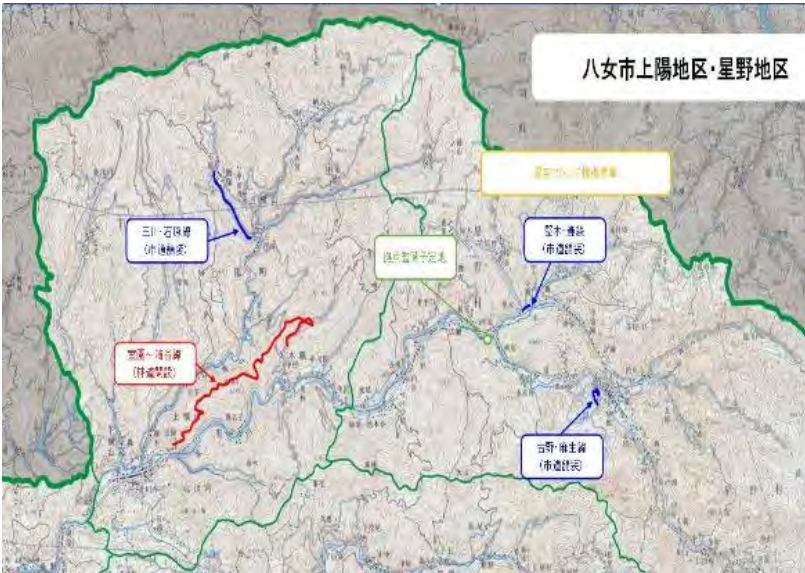
事業概要：ヘリテージ・タイムトラベル：古き良き町並み魅力拡大プロジェクト事業

旧制度（推進）

申請者	福岡県八女市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	16,402千円 (3,592千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的・効果	伝統的建造物群保存地区の平日閑散や認知度不足の解消を目的に、魅力向上と誘客促進を図ります。インフルエンサー等による認知拡大に加え、すだれ看板による回遊性向上を一体的に展開します。これにより、来訪者の滞在時間と地域消費を最大化し、地域経済への波及効果を高め地域全体を活性化させます。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 伝統的建造物群保存地区（八女福島・黒木）を観光目的地としての認知度を拡大するためにインフルエンサーを招聘し動画等の制作と配信を行うとともに、伝統素材「すだれ」を活用した誘導看板を設置し地区内の回遊性を促進する。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ・伝統的建造物群保存地区プロモーション業務委託料 2,592千円 ・「すだれ」を活用した町並み空間演出及び回遊促進業務委託料 1,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①地域における観光消費額（旧八女+旧黒木）（+1,800万円） ②横町町家交流館来館者数（+1,800人） ③横町町家交流館SNSフォロワー数（+900人） ④観光入込客数（旧八女+旧黒木）（+9千人）	URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL	https://www.city.yame.fukuoka.jp/shisei/8/chihousousei/150000249735.html

事業概要：誇りをもち・安心して住み続けられるまちづくりプロジェクト

継続

申請者	福岡県八女市、福岡県					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R11年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,322,122千円 (153,486千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	星野地区では商店の閉店により、日用品の買い物できる場所がなく住民の日常生活に支障をきたしている。また、当該地区は災害により孤立集落も発生する地区であり、災害時の避難路や迂回路の整備による集落孤立防止や物資等の輸送路の改善対策は、安全・安心で住みやすいまちづくりのためにも解決すべき急務の課題である。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 買い物を含めた総合的な生活支援・行政代替・災害対応等の複合的な機能を持つ中山間地域生活維持拠点施設を民間主体で建築する。また、接続する林道・市道を整備することで、災害避難や物流の維持確保、木材搬出路として活用するとともに、星空のブランド化により地域住民の愛着を高め持続可能な地域を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 ・星空ブランド推進事業 星空保護区認定申請に係る調査・対応、星空保護に関する機運醸成・啓発イベントの実施 1,386千円 ○インフラ整備事業経費 ・森林管理道室園～浦谷線の開設事業 124,100千円 ・道路整備事業（市道古野・麻生線） 28,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①上陽・星野地区における社会減数（外国人を除く）（▲25人/年） ②星野地区の観光入込客数（+20.5千人） ③県道八女香春線の日交通量（+885台） ④孤立集落数（▲21戸） ⑤林道室園～浦谷線の利用区域内の木材搬出量（+200m³）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.yame.fukuoka.jp/shisei/8/chihousousei/1500000249735.html

申請者	福岡県八女市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	54,162千円 (18,490千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	地域経済の活性化や雇用創出の要である地域産業の生産性向上と発展を実現する。都市圏で就職した若者のUターン等を促進し、地元企業の人材不足を解消する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 商工業者のDX推進や生産性向上、ESG評価取得等の取組みを補助金で支援し、経営基盤の強化と販路開拓を図る。また、空き施設の調査やWebサイト構築、採用PR動画の作成支援、企業紹介パンフレットの配布を実施。これら多角的な支援により、市内中小企業の人材確保と、若者を中心とした就職・転職の促進を実現し、地域経済の活性化を推進する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・商工業者DX支援事業 ITツール導入費用（補助金）10,000千円 ・空き店舗活用支援事業 空き店舗調査、サイト構築等（委託料）990千円 ・企業プロモーション動画作成支援事業 プロモーション動画制作にかかる費用（補助金）4,500千円 ・ESGブランディング支援事業 ESG評価・認証取得にかかる費用（補助金）3,000千円						
主なKPI	①市内従業者数（+715人） ②商工業者DX支援事業補助金申請数（+60社） ③空き店舗掲載数（+90件） ④企業プロモーション動画作成支援事業補助金申請数（+90社）					URL	https://www.city.yame.fukuoka.jp/shisei/8/chihousousei/1500000249735.html
※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値							

事業概要：八女市ローカルベンチャー創生事業

継続

申請者	福岡県八女市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	51,399千円 (20,216千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	八女市内の各ステークホルダーを巻き込んだローカルベンチャースクール（仮称）を立ち上げ、都市圏在住の地方に興味がある・起業したい潜在層を募集し八女市へ集客し、伴走支援することで起業するサイクルをつくる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 八女市内の各ステークホルダーを巻き込んだローカルベンチャースクール（仮称）を立ち上げ、都市圏在住の地方に興味がある・起業したい潜在層に対してプロモーションを行って新規事業提案を募集し八女市へ集客する。提案については実現性を高めるためスクール内で壁打ち・ブラッシュアップしたうえで審査を行い、優秀者を表彰する。優秀者に対しては各種補助金や、メンタリング等の事後伴走による支援を行い事業化を目指す。この継続的なサイクルを確立し、全国から仕事を持って移住してもらう仕組みを作り出すことで、人口減少対策とともにしごとを創出する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ローカルベンチャースクール（仮称）を設立する。Webサイトの制作・都市圏へのSNSや広告・求人サービス・交流イベント開催によるPR、応募者のエントリー～スクールの運営・審査、事後伴走のためのコミュニティ運営等を実施。 ・委託費：20,216千円						
主なKPI	①八女市における新規事業者数（+30人/年） ②八女市への転入者数（+130人/年度） ③ローカルベンチャースクール（仮称）応募者数（+15人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.yame.fukuoka.jp/shisei/8/chihousousei/1500000249735.html

事業概要：八女ふたつの暮らしプロジェクト

継続

申請者	福岡県八女市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	41,520千円 (8,800千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	都市と八女市との二地域居住を推進し、八女市における関係人口・半定住人口の増加を図る。 関係人口の増加によりレジャーや買い物などの消費の増加を図る						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ○保育園留学事業 都市部の子育て世帯を対象に、地域の保育園と居住施設で2～3週間を過ごす「保育園留学」を実施。これにより、将来の移住にもつながる関係人口を創出し、保育園の空き定員や空き家の活用、地域経済の活性化を図る。 ○クラインガルテン事業 八女市東部の農地等の地域資源を活用して宿泊機能付き農園を整備し、都市部住民に「農的ライフスタイル」という新たな付加価値を提供することで、関係人口の創出から移住へと繋げ、地域経済の活性化を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・保育園留学事業 実施体制構築（委託料）8,800千円						
主なKPI	①転入超過数（+80人） ②二拠点居住世帯数（本事業のみ）（+16世帯） ③観光消費額（+612万円）					URL	https://www.city.yame.fukuoka.jp/shisei/8/chihousousei/1500000249735.html
						※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	

事業概要：分散型クラインガルテンモデル事業～新しい「農ある暮らし」～

新規

申請者	福岡県八女市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	62,590千円 (18,590千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・都市と八女市との二地域居住を推進し、八女市における関係人口・半定住人口の増加を図る。 ・空き家や耕作放棄地を地域資源として再構築することで、空き家や耕作放棄地の減少を目指す。 ・全国でも事例がない分散型クラインガルテンモデルを課題解決型のビジネスモデルとして確立を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業は、中山間地域の空き家と耕作放棄地をネットワーク化し、集落全体を滞在型市民農園（クラインガルテン）とする官民連携のモデル事業です。「分散型ホテル」の概念を応用し、古民家滞在と農体験を一体化。加えて、八女茶や和ハーブの栽培から蒸留加工までを行う「ビジネス・ラボ」を実装し、6次産業化と販路開拓を推進します。都市部層へ「香りと土のある暮らし」を提案し、遊休資産の再生と持続可能な地域経済の確立を目指します。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・分散型クラインガルテン実証事業業務委託料（委託料）18,590千円 事業拠点に係る空き家・耕作放棄地確保のための調査、一般モニターツアーによるデータ収集、新サービスや企画イベント※、滞在施設やビジネス・ラボに係る運営を委託する。 ※想定している新サービスや企画イベント：農産物の高付加価値体験として収穫した八女茶、茶の実、和ハーブの精油・商品化・販売体験、米作り体験、地元の農家や伝統文化との交流企画を想定						
主なKPI	①関係人口数（+13,500人） ②分散型クラインガルテン滞在・体験利用者数（延べ人数）（+58人） ③空き家活用棟数（当該事業のみ）（+6棟） ④観光消費額（経済波及効果指標）（+485百万円）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.yame.fukuoka.jp/shisei/8/chihousousei/1500000249735.html

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

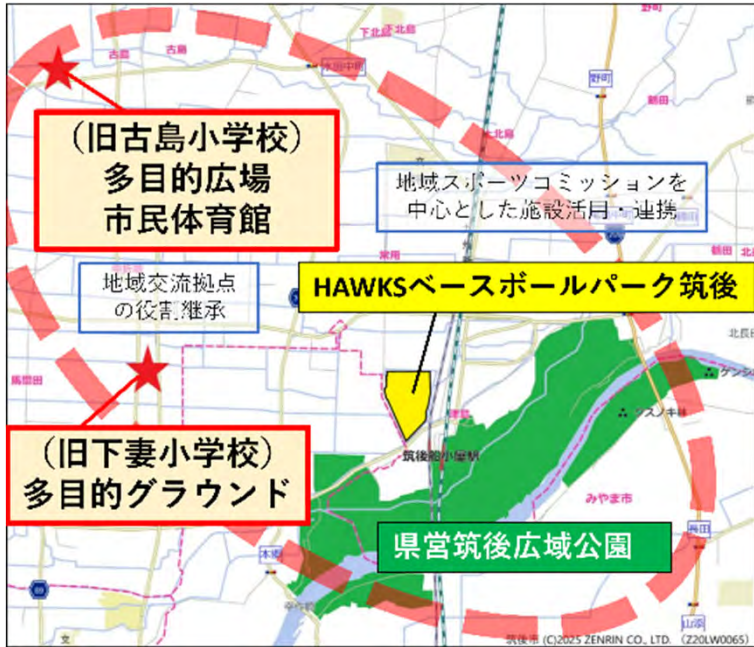
事業概要： いわい1500年を契機とした「コダイ⇄ミライ」価値創造プロジェクト

新規

申請者	福岡県八女市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	173,027千円 (69,384千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・本事業は、八女市の多くの観光課題の中でも、特に八女市の筑紫君磐井を中心とした歴史コンテンツを一般観光客や若年層が楽しめる「体験・エンターテインメント」としての価値転換（高付加価値化）するとともに、各時代の文化資産をつなぐ役割を交流館が果たすことで、観光消費額の向上を目指すものである。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・岩戸山歴史文化交流館の岩戸山古墳復元3Dモデル作成とそのデータを用いたVR体験コーナーの設置や体験型の展示への転換を中心とした整備を実施する。また、旧川崎小学校の南校舎及び体育館を八女市岩戸山歴史文化交流館別館として整備する。 ・磐井の乱から1500年となる2027年の機会を捉え、いわいをコンテンツとしてプロモーションし観光客を呼び込むための各種イベントを実施する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・いわい1500年を核としたプロモーション事業（委託料、報償費、需用費）9,384千円 ○拠点整備事業 ・岩戸山歴史文化交流館改修（委託料）15,053千円 ・岩戸山歴史文化交流館別館実施設計・整備工事（委託料）18,691千円 ・岩戸山歴史文化交流館設備整備 5,979千円 ・岩戸山歴史文化交流館備品整備 1,897千円 ・岩戸山古墳復元VAR・映像コーナー用いわいPR動画作成 18,380千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①八女市の観光消費額（+1,227百万円） ②岩戸山古墳をコンテンツとした商品開発数（+5件） ③岩戸山歴史文化交流館の年間入館者数（+13,400人） ④市内文化施設の年間利用者数（+15,300人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.yame.fukuoka.jp/shisei/8/chihouseusei/1500000249735.html

事業概要：スポーツ・健康まちづくりを推進！分散型地域スポーツ施設整備プロジェクト事業

新規

申請者	福岡県筑後市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,479,269千円 (341,681千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	廃校した小学校を多目的スポーツ施設として整備し、地域内外の交流拠点として活用することで、地域課題の解決とスポーツを通じた関係人口の拡大を目指す 市内にあるスポーツ施設の活用推進を目的として地域スポーツコミッションを形成し、整備した施設全体の運営者の設立・育成をすることで、スポーツと観光・健康事業との連携を充実させ、経済活性化を図る						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 廃校した小学校跡地に多目的スポーツ施設を整備することで、旧小学校が担っていた地域交流の拠点としての役割を継承し、地域内の交流機会を増やし、役割の異なる市内各スポーツ施設の効果的な活用推進を目的として、地域スポーツコミッションを形成する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・推進主体組成事業 ・連絡調整費用（役務費） 3千円 ・会議開催費用（需要費） 3千円 ○拠点整備事業 ・旧小学校解体 ・実施設計（委託料） 4,400千円 ・解体工事（工事費） 274,741千円 ・解体工事監理（委託料） 7,594千円 ・分散型地域スポーツ施設整備 ・実施設計（委託料） 54,940千円						
主なKPI	①観光消費額の増加（+269.12百万円） ②筑後市南西部人口の維持（+174人） ③整備施設の利用者数（+35,000人） ④競技会場に行ってスポーツを見る市民の割合（+20.8%） ⑤1年間にスポーツボランティアをした市民の割合（+1.6%）					URL	令和8年6月公表予定

事業概要：ゆくはしシティプロモーション事業

継続

申請者	福岡県行橋市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	33,800千円 (10,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・行橋市の魅力や特色を域外にアピールして、地域イメージの向上や地域経済の活性化を図る ・行橋市の「住みよさ」をPRすることで移住者・定住者を増やす						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 多言語パンフレットや動画、首都圏イベントでの対面PR、特産品開発等の多角的な情報発信を推進する。民間視点を取り入れた広報により、新規層を関係人口化し、本市への来訪や生活イメージの醸成を促進。特産品の付加価値向上と併せ、地域経済の活性化とブランド力強化を図り、将来的なファン拡大と地方創生を加速する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 ・移住定住パンフレット作成事業 ・移住定住PRパンフレットの作成（委託） 2,294千円 ・魅力発信事業 ・関東圏で実施される各種イベントへの参加（役務費・消耗品）705千円 ・シティプロモーション委託（委託料）2,850千円 ・情報発信番組等製作委託（委託料）3,410千円 ・シティプロモーション動画用機材購入（備品購入費）741千円						
主なKPI	①人口の社会増（+300人） ②観光パンフレット等の配架数（+4,500部） ③SNSの動画閲覧数（+3,000,000回） ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和9年3月公開予定

事業概要：Re:ぶぜんプロジェクト
サーキュラーシステムが紡ぐ豊前版小さな拠点2.0

旧制度（推進）

申請者	福岡県豊前市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	316,412千円 (92,343千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	・日常生活の機能に着目したシェアリングサービスができる拠点の創出により、拠点の利用活性化を図る ・「ヒト・モノ・カネ」が拠点を循環するために、デジタル技術を用いた移動の最適化を図る ・地域ポイントの構築により、ブロックチェーンの仕組みを導入し新たな経済の活性化を図る ・特色のある拠点づくりを進め、拠点内外、市内外からも関係人口の創出拡大を通し担い手の創出育成を図る		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 循環複層型の拠点をつくることで、誰もが自分の居場所や役割を持ち質の高い暮らしを目指す。誰もが使える地域の核となる拠点や、共通の趣味などを通じ繋がるという場にと囚われない拠点などを組成するために、拠点へ立ち寄るための機能を持たせたり、関わり代を作る各種イベント、拠点間を行き来するための移動、地域活動を活性化させるための地域ポイントを稼働する。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ・コミュニティ創出支援（委託料）5,856千円 共通の趣味などのコミュニティの創出と自走に向けた支援を行う。 ・サーキュラー事業（委託料）8,329千円 サーキュラーの学びと地域活動の活性化を図る。 ・地域コミュニティ交通デザイン（委託料）14,929千円 現状の交通の課題整理から拠点間の移動を含む交通デザインを行う。 ・関係人口創出支援業務（委託料）5,987千円 関係人口創出を進め、地域課題の解決に資する関係性を構築する。		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①地域の世帯数（+75世帯） ②小さな拠点の整備数（+16箇所） ③小さな拠点の利用者延べ人数（+5,900人） ④小さな拠点における売上高（+16,000千円）		
		URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL	https://www.city.buzen.lg.jp/sou sei/rebuzen.html



事業概要：新アリーナと連携した新しい交流拠点整備事業

新規

申請者	福岡県小郡市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R11年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,283,800千円 (91,300千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	本市はこれまで大規模住宅開発により人口増を実現してきたが、今後は住環境の魅力向上による移住・定住促進や交流人口・関係人口の拡大が重要となる。本事業では、市の中心拠点に多目的ホールを有する交流拠点施設を整備し、プロスポーツ団体等との連携による広域からの誘客を推進することで、地域経済の活性化を図る。また、地場産品のPRや販路拡大、市内小売店の利用促進を通じて、地場産業の付加価値向上につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 新アリーナ整備に合わせ、多目的ホールを備えた交流拠点施設を整備する。映像音響設備の導入やアリーナとの連携により多様なイベントや大規模大会開催が可能となるほか、屋外広場を活用し施設内外一体の催しや地場商店の出展も促進する。さらに関係団体との連携体制を構築し、新たな人の流れの創出と地域経済の活性化を図る。					【外観パース（赤枠箇所）】 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 実施設計委託料：91,300千円 ・多目的棟建設に対する実施設計委託料 77,550千円 ・既存体育館解体に対する実施設計委託料 13,750千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①市内総生産額（+10億3,037万円） ②施設来場者数（+62,000人） ③地域イベント開催回数（毎年6回） ④利用者満足度平均調査結果（82.9%） ⑤甘木鉄道大板井駅の年間乗降者数（+16,120人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.ogori.fukuoka.jp/204/5820/5824#a06

事業概要：筑紫野市シティブランディング推進事業

新規

申請者	福岡県筑紫野市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	39,170千円 (24,970千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・市が発信すべき提供価値や対象を明確化したブランドビジョン・アクションプランに基づき、市と地域、地元事業者等が、同じ理念を共有しながら、連携して市の魅力等の情報発信と、地域経済活性化に資する新たな事業の開発・運営を行う。 ・市の認知度向上・関係人口拡大と、地場産業活性化を両輪として、互いに相乗効果を生む好循環の創出を図り、もって第3期筑紫野市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる「まちに活力をもたらす産業の振興と雇用の創出」、「まちの魅力の向上と新たな人の流れを促す情報発信」の実現を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 市が行った調査の結果、市の認知度やブランド力の低さが明らかとなったため、市が発信すべき提供価値や対象を明確化したブランドビジョン・アクションプランに基づき、認知度向上や関係人口拡大を目的とした魅力発信事業と、地元産品等の販路拡大や観光誘客等に資する新たな事業の開発を、市・地域・事業者が一体となって取り組む。 ・魅力発信 魅力発信のためのWEBサイトの構築や動画、広報啓発物等を製作。 イベントや地場産品などの広報・プロモーション活動の伴走支援を行う。 ・地場産業支援 地元産品の市外販路開拓や、観光誘客等の新たな事業の開発や運営の伴走支援を行う。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・魅力発信【WEBサイト構築、プロモーション支援等】(委託料) 14,520千円 ・地場産業支援【事業開発、運営の伴走支援等】(委託料) 10,450千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①人口の社会増減 (+40人) ②市内事業所数 (+160社) ③観光入込客数 (+100,500人) ④特徴や名所などを知っていると回答した市外住民の割合 (+10%) ⑤ブランディングサイトのアクセス件数 (+15,000件)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年7月公開予定

申請者	福岡県大野城市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	52,893千円 (5,217千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・ ChatGPT等の生成AIの普及などにより、新しい働き方など人々の価値観や行動様式の変容が見られることから、社会事情をふまえた人口減少克服の取組を進め、次代を担う世代の定住人口の確保とまちの活力を維持していく。 ・ 本市では転入超過率が福岡都市圏の自治体と比較して高いことから、地域の中で人の入れ替わりが急速に起こっており、地域活動を支える担い手の高齢化や固定化が懸念されているため、居住地を問わず地域を支える関係人口を創出する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本市の魅力効果を効果的に発信し、愛着と関係人口を育むため、三つの取組を展開する。第一に、地域資源や住みやすさを可視化したブランディングサイトや動画、冊子を制作し、「住んでみたい・子育てしたい」と感じてもらうことで定住促進の好循環を生み出す。第二に、住民と共に魅力の掘り起こしやコンテンツ制作に取り組み、発見や再発見を通じて「心のふるさと・大野城」への愛着を深める。第三に、キャラクター等を通じ市内外の人をつなぎ、継続的な交流の場を整えることで、関係人口の創出とまちとの持続的な関わりにつなげていく。					関係人口 階段を上がることに関心・関与の度合いが増える 新しい人に紹介する 住む・関わる 来る・好きになる 知る  人と人のつながりがあることで住みたい街・住み続けたい街になる 移住・定住	
	【R8年度事業 経費内訳】 ・ブランディングサイト、プロモーション動画、プロモーション冊子の制作、運営保守（委託料）2,277千円 ・ホームページの制作、運営保守（委託料）2,940千円						
主なKPI	①転入超過率（＝転入者数÷転出者数）（＋15%） ②プロモーション動画の再生回数（＋5,400回） ③若年層（15～34歳）の住民参加型ワークショップ参加者数（＋40人） ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	・https://my-onojo.jp/ ・https://www.city.onojo.fukuoka.jp/

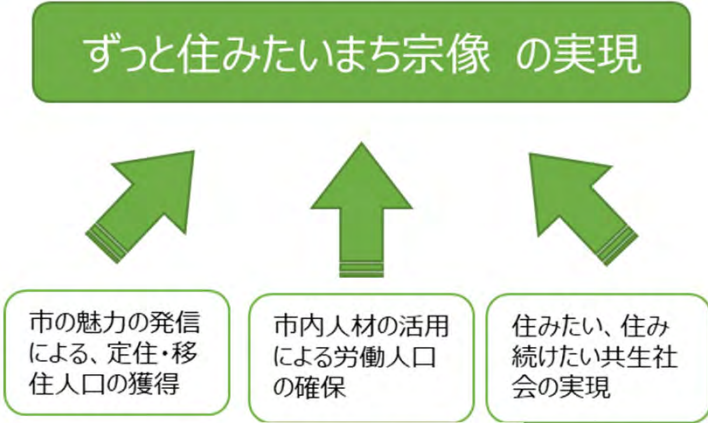
事業概要：地域ブランディングによる観光の促進事業

旧制度（推進）

申請者	福岡県宗像市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	43,290千円 (10,900千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的・効果	・宗像の食全般でブランディング、プロモーションを行い、市内外での認知度向上、消費拡大、関係人口、交流人口の増加を図る ・道の駅むなかたを中心とした「コト消費」の拠点化、体験型観光コンテンツの造成等により、観光入込客数、消費額の増を図る		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 「食のまち宗像」推進事業では、農業・漁業を活かした食体験や特産品開発に取り組み、市内外における戦略的なプロモーションを実施する。直売所の情報発信や学校給食での地元食材活用を通じて、地域の食の認知度向上を図り、定住や交流人口の増加を目指す。また、道の駅むなかたを中心とした「コト消費」の拠点化により、観光客と地域資源の結びつきを強化する。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ・市内食育講座（委託料） 200千円 地元食材を活用した講座開催による、地域の認知度向上と消費拡大 ・むなかたフェア（委託料） 6,000千円 地元食材使用飲食店のPRを通じた、近郊および大都市圏へのBtoB販路開拓 ・道の駅むなかた「コト消費」推進事業費 3,000千円 観光客への体験事業斡旋による、コト消費の拡大と地域経済の振興		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光による市内消費額（+18,000百万円） ②道の駅むなかたの来場者数（+5,025,000人） ③道の駅むなかたの売上（+5,022百万円） ④農産物直売所「かのこの里」の売上（+1,020,000千円）		URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL



令和8年7月公表予定

申請者	福岡県宗像市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	65,013千円 (21,171千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	人口減少・高齢化による担い手不足を解消し、地域経済の活性化と市民生活サービスの維持・向上を目指す。 市の魅力発信による移住・定住促進と、市内人材（多様な背景を持つ住民を含む）の活用による労働人口確保を実現する。 誰もが安心して暮らし、活躍できる「住みたい、住み続けたい共生社会」を構築し、「ずっと住みたいまち宗像」の実現に資する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業は、「ずっと住みたいまち宗像」の実現を目指し、人口減少・高齢化による担い手不足や地域経済の活力低下といった課題解決を図る。具体的には、市の魅力発信による定住・移住人口の獲得、市内人材の活用による労働人口の確保、そして多様な住民が活躍できる共生社会の実現を3つの柱として一体的に取り組む。これにより、地域経済の活性化、市民生活サービスの維持・向上、持続可能な地域社会の構築を目指す。					ずっと住みたいまち宗像 の実現 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ① 市の魅力の発信による、定住・移住人口の獲得 お試し居住（委託料） 1,100千円 産官学連携による、プラットフォームの形成や宗像市をフィールドに行う実証実験を支援（委託料） 8,500千円 ② 市内人材の活用による労働人口の確保 市内企業でのインターンシッププログラム（委託料） 1,200千円 介護人材確保のための環境整備や新規就職支援（委託料） 8,700千円 ③ 住みたい、住み続けたい共生社会の実現 女性就職応援セミナー 1,071千円 国籍によらない市民の交流の場づくり（委託料） 500千円						
主なKPI	①宗像市の総人口（+72人） ②宗像市の生産年齢人口（+48人） ③市内事業所を対象とした人手不足実態調査における人手不足の割合（±0%） ④市内高校に通学している高校生のキャリア教育受講者（+150人） ⑤女性の就労支援に関するセミナーの参加者（135+人） ⑥多文化交流イベントの参加者数（+300人）					URL	令和8年7月公表予定

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL

事業概要：インキュベーション施設を核としたデジタル人材の育成とワーケーションによる関係人口創出事業

旧制度（推進）

申請者	福岡県古賀市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	42,371千円 (12,115千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・先駆型	事業分野	地方への人の流れ
目的・効果	生産年齢人口（20代～40代）の転出超過を抑制するため、インキュベーション施設「快生館」を核としたデジタル人材育成、市内企業のDX推進、ワーケーションによる関係人口創出を一体的に展開する。これにより、多様な働き方の定着と地域活力の活性化を図り、持続可能な地域社会構造への移行をめざす。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 デジタル人材育成とマッチング：市民へのデジタルスキル研修と市内企業のDX・BPR支援を行い、柔軟な働き方の定着と地元雇用を創出する。 二地域居住・ワーケーション促進：航空会社等と連携したプロモーションや、親子移住体験プログラム、地域資源（温泉・狩猟等）を活用したリトリートプランの提供により関係人口を拡大する。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ・デジタル人材育成事業（委託料）1,430千円 ・デジ市内企業を対象としたDX支援事業（委託料）2,587千円 ・二地域居住等促進事業（委託料）3,654千円 ・親子ワーケーション事業（委託料）4,444千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①20代～40代のUIターン数（+168人） ②デジタル人材育成研修の受講者数（+60人） ③DX・生成AI活用に取り組んだ企業数（+6社） ④親子ワーケーション参加世帯数（+30世帯）		URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL https://koga-work.style/ https://www.city.koga.fukuoka.jp/cityhall/work/kikaku/071.php

事業概要：地域ぐるみでの脱炭素経営支援体制による地方創生プロジェクト

繼續

申請者	福岡県古賀市						初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	23,247千円 (8,436千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業			
目的・効果	福岡県内の支援機関、専門機関、地域金融機関、市内事業者、各種行政機関と共に脱炭素経営支援プラットフォームを構築し、各企業が個々に対応している問題を地域全体の問題として考え、情報を共有できるよう、限られた時間、予算の中で、効果的・効率的に脱炭素経営への移行を進める支援を行う。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 上記目的を達成するため、各主体が、垣根なく地域ぐるみで相互に情報共有・情報連携を行うことができる場をオンライン上で創出する。						古賀市脱炭素経営支援プラットフォームの運用フロー図。左側には「市内企業の皆様」があり、「プラットフォーム入会なし / プラットフォームHPを利用」や「プラットフォーム入会登録、脱炭素経営カルテ回答 ※全てのメニューの利用が可能」という流れが示されています。中央には「事務局」があり、「サポート① 基礎面談・相談（対面／電話／チャット）」や「サポート② コーディネーターによる伴走支援（必要に応じて派遣、脱炭素経営力アップを図る）」「サポート③ 企業間の交流促進（対面／電話／チャット）」などのサービスを提供しています。右側には「支援機関・専門機関の皆様」があり、「個別に接洽」や「一般の交換メニュー」が行われます。下部には「古賀市脱炭素経営支援プラットフォーム」と記載されています。	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○古賀市脱炭素経営支援プラットフォームの運用に係る事業（委託費：4,646千円） ・プラットフォーム運用 ・コーディネーター派遣 ・支援メニュー管理 ・会員向けセミナー開催 ・情報発信 ○温室効果ガス排出量可視化支援事業（補助金：300千円） ・温室効果ガス排出量可視化システム導入費補助 ○脱炭素社会実現に資する専門人材の招へいに関する事業（報償費・旅費：990千円） ○地域エネルギー会社設立に関する事業（出資金：2,500千円） ・地域エネルギー会社設立出資金							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①プラットフォーム参画企業の新規雇用者数（+60人） ②プラットフォームに参画している企業数（+50社） ③プラットフォームを通じて支援メニューを利用した企業数（+20社） ④プラットフォームが主催するセミナーへの参加企業数（+40社）						URL ※交付金の具体的な使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://koga-zc-challengers.jp/ https://www.city.koga.fukuoka.jp/cityhall/work/kikaku/071.php

事業概要：古賀市未来創生インターンシップ事業

継続

申請者	福岡県古賀市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	34,802千円 (10,800千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	生産年齢人口（20代～40代）の転出超過を抑制するため、インキュベーション施設「快生館」を核としたデジタル人材育成、市内企業のDX推進、ワーケーションによる関係人口創出を一体的に展開する。これにより、多様な働き方の定着と地域活力の活性化を図り、持続可能な地域社会構造への移行をめざす。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 未来創生インターンシップ「こがシップ」：都市部の大学生等が市内企業でプロジェクトに参画する実践型プログラムを運営。企業の魅力発信と若者の関係人口化を図る。 古賀市合同会社説明会（新規）：地元高校生（1・2年生含む）や大学生、一般求職者を対象とした説明会を開催。ブース形式での交流に加え、開催後のフォローアップ調査や採用支援を実施し、確実な雇用へ繋げる。					  	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・こがこねくと運用費（委託料） 3,960千円 ・企業PR費（委託料） 880千円 ・受け入れ先企業支援費（委託料） 935千円 ・インターンシッププログラムPR費（委託料） 1,155千円 ・インターンシッププログラム運営費（委託料） 990千円 ・合同会社説明会事業委託 2,000千円 ・機材費・事務局運営費（委託料） 880千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①プログラムで創出された関係人口数（+300人） ②インターンシップに参加した大学生等の人数（+30人） ③インターンシッププログラムに参加した企業数（+15社） ④プログラムに参加する企業の採用者数（+11人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://careetern.com/special_intern/kogaship https://www.city.koga.fukuoka.jp/cityhall/work/kikaku/071.php

事業概要：まちを支え、地域をつなぐ持続可能な公共交通体系リ・デザインプロジェクト

継続

申請者	福岡県古賀市					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	329,118千円 (84,692千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	バス運転士不足の中で、市民の移動に欠かせないバス路線を維持するため、まずはAIオンデマンドバス「のるーと古賀」運行エリアにおいて自動運転バスを導入し、将来的な路線バス区間のタクシー事業者による運行も想定しながら、バス・タクシー両事業者の協力のもと実証運行を行い市内公共交通体系のリ・デザインに取り組む 市内交通情報をデジタルサイネージで情報発信し、交通アプリの利用活性化を図ることで交通モードを組み合わせ活用しやすい地域づくりに取り組む						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 日常的に移動したいが公共交通を利用できないという住民向けの事業と移動需要に応えたいが運転手不足等で路線や運行便数を確保できない運行事業者向けの事業を行い、移動したい人が利用しやすい市内公共交通体系となるようリ・デザインを図る取り組みを実施する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○公共交通体系の再構築に係る事業（委託費：81,392千円） ・自動運転ののるーとの実証運行 ・運行体制構築、トラブルシューティング訓練 ○地域交通活性化事業（委託費：3,300千円） ・デジタルサイネージを活用した交通情報発信・利便性向上 ・交通アプリの利用活性化を図るスマホ教室の開催 ・人流調査、属性分析						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①公共交通機関利用率(+0.4%) ②のるーとアプリ登録者数（+100人） ③商業施設立ち寄り数（+1,050回）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和9年10月公表予定

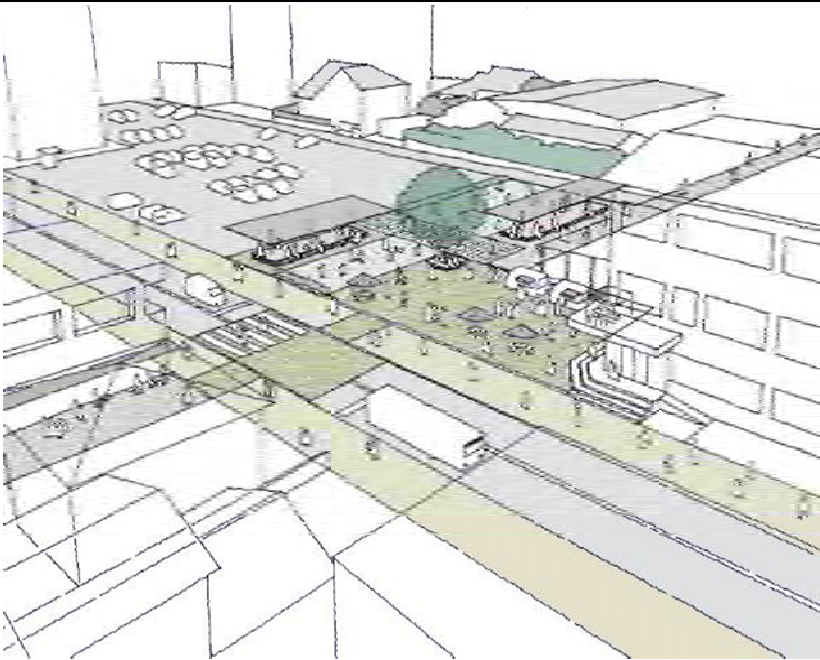
事業概要：AI対話型ブロードリスニング産学官共創イノベーション事業

新規

申請者	福岡県古賀市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	8,089千円 (2,899千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	「稼ぐ力」の最大化： AIとの対話で「買わない理由」等の潜在ニーズを特定。データを地場産業へ還流し、新商品開発による直接的な売上向上を実現する。 シビックプライドの醸成： 従来のアンケートから「AIとの対話」へ転換。自分の声が地域経済を動かす体験を通じて、当事者意識を向上。 IT産業の育成と自走化： 市内事業者との共同開発で技術を蓄積。公共実績を武器に外貨獲得を支援。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 市内先端IT事業者・九州産業大学と連携し、生成AIによる「ニーズ深掘り型」対話システムを構築 インサイト抽出： AIが市民の生活実態を深掘りし、従来の紙調査では見えなかった「想定外のニーズ」を構造化。 産業還元： 分析データをJA、商工会、工業団地組合等へ戦略資料として提供し、具体的な地域課題解決プロジェクト（売上増、採用改善等）を始動させる。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 対話型AIインサイト抽出基盤開発委託料（1,485千円）： 消費者の潜在ニーズを構造化し、企業の経営戦略に提供するためのシステム構築。 産業支援用AI実証試験・運用委託料（754千円）： 付加価値創出に直結する対話シナリオの最適化、および市民モニター参画による精度検証。 産学連携による市場ニーズ高度分析委託料（660千円）： 大学による高度なログ分析。商品開発や投資のミスマッチを解消。						
主なKPI	① 本事業の分析を活用した地場産品等の売上増加額（+1,100万円） ② 本事業の分析データを提供した地場企業・団体数（+15団体） ③ 具体化した地域課題解決プロジェクトの件数（+8件） ④ 市内IT事業者の「先端技術活用事例」としての発信数（+9件）					URL	令和9年10月公表予定
						※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	

事業概要：古賀駅西口 まち・ひと・しごと創生拠点形成事業

新規

申請者	福岡県古賀市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	212,539千円 (44,818千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	駅前の公共空間(憩いの広場)と商工会館を一体で整備・運用し、交流人口の増加と事業機会の創出を図る。創業支援・事業承継支援をワンストップ化し、実証出店やテストマーケティング、マッチング、専門家支援を通じて、新たな事業の立ち上げと既存事業の継続を後押する。これにより地場産業の付加価値向上と駅西口エリアのにぎわい形成を実現する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・商工会館の1階を市民が集える交流空間に再整備し、再整備する憩いの広場と一体的な利活用を行う。2階、3階部分は「創業支援・事業承継支援の拠点機能」の強化を図るため、商工会事務局（※交付金対象外）に併設する形で貸しオフィス等を整備し、企業支援のワンストップ化を図る。 ・官民連携による賑わいイベントの実施や、行政と民間のコミュニケーションを円滑にするためのwebツールの改良・活用を行う。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・事業承継促進事業（委託料）3,238千円 ・沿道利活用社会実験（委託料）11,328千円 ・官民連携ウォークアブル社会実験補助金（補助金）1,300千円 ・コミュニケーションツール改良費（委託料）792千円 ○拠点整備事業 ・商工会館リノベーション実施設計業務（補助金）5,060千円 ・駅前憩いの広場整備工事設計委託（委託料）23,100千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①新規創業による付加価値（+5,800万円） ②新規開業数（+13件） ③商工会館の一般利用者数（+1,200人） ④事業承継マッチング事業者数（+5件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和9年10月公表予定

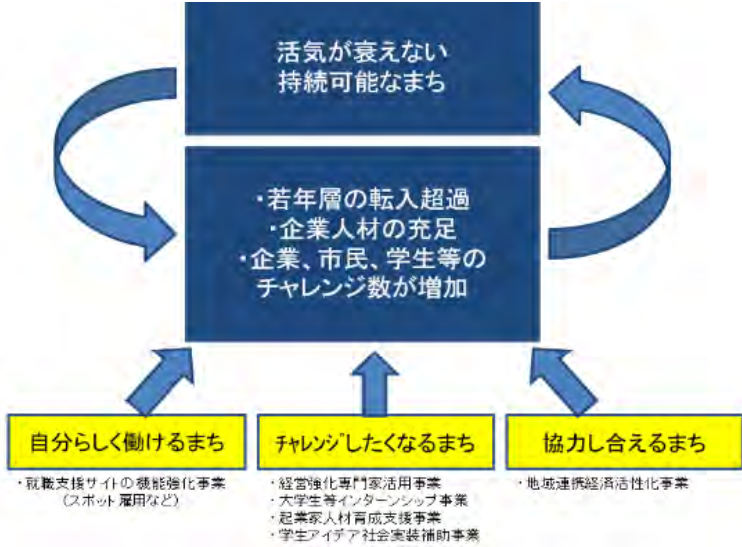
事業概要：持続可能な「ふくつ」観光地域づくりにおける“産業連携×デジタル活用×地域活性化”による高付加価値化の実現プラットフォーム構築事業

継続

申請者	福岡県福津市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	28,800千円 (9,600千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・来訪者の周遊促進を目指し、テコ入れ策を検討・実施する観光関連事業者組織の形成支援を行う ・より多くの来訪につなげるために、従来の紙媒体中心のPRからデジタル技術を活用したPRにシフトする ・ポテンシャルを発揮できていない観光拠点の再生に取り組む						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 観光関連事業者の連携支援や、SNS・デジタル技術を活用した分析・広告配信による新規層の開拓と市内周遊を促進する。 また、各観光エリアの受入環境の高付加価値化を推進。これらの取組を通じた観光消費額の向上により、地域経済の循環活性化と地方創生の加速を実現する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・観光関連事業者の連携促進組織の運営事業（委託料）4,600千円 ・デジタルを活用した観光総合プロモーション（委託料）4,000千円 ・観光エリアの魅力再生事業（委託料）1,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①来訪者一人あたりの観光消費額（+204円） ②観光入込客数（+265千人） ③FUKUTSU WAVEおけるPV数（+72,299件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://dmofukutsu.com/ （効果検証については、別途令和9年10月公表予定）

事業概要：糸島市「地域人材活躍・地域活性化」事業

旧制度（推進）

申請者	福岡県糸島市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	43,665千円 (11,000千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	近い未来、人口減少が避けられない中、「自分らしく働けるまち」、「チャレンジしたくなるまち」、「企業や学生、市民、ビジネスパーソンが繋がり、互いのSOSを出し合え、協力し合えるまち」を目標に据えた取り組みを実施し、若年層の転入超過（社会増）や企業人材の充足を実現させるとともに、企業や人材の一人当たりのチャレンジ数を維持・拡大させ、活気が衰えないまちを作る。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 経営基盤の強化事業成長に必要な取り組みを行う小規模事業者の支援。市が抱える地域課題や行政課題等を研究する協定大学等の学生に対し、市が研究費用を補助することで「学生がチャレンジできるまち」として地域活性化を図る。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ・市内企業者への補助金 3,000千円 ・企業とプロフェッショナル人材とのマッチング・伴走支援に係る委託料 6,000千円 ・研究費補助金 2,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①20～64歳の転入出者数（+1,200人） ②法人市民税決算額（+0.04億円） ③創業件数（商工会支援件数、累計）（+25件） ④就職支援サイト「きっとみつける 糸島しごとさがし」の登録企業数（累計）（+16社）	URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	（交付金の具体的使途・実施体制） https://x.gd/Yzagh （効果検証） 令和8年6月下旬公表予定

事業概要：市民活躍都市「いとしま」実現事業

継続

申請者	福岡県糸島市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	327,115千円 (97,972千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	本市の地域資源である「文化・スポーツ」に着目して、生涯を通じて学び・活動が続けることやその成果を生かすことができる環境の整備・充実に取り組むことで「市民が活躍するまち」を目指し、既存の施策や事業によるまちづくりと重ね合わせることで、糸島の魅力をさらに磨き上げていくことで、持続可能な「住み続けたいまち」となり、移住・定住人口の確保を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本市の文化芸術振興について基本的な方向性を構築するとともに、市民が身近に糸島の文化芸術に触れるための文化財の整備を実施する。さらに、人工芝グラウンド再整備を行うことで、年代や障がいの有無に関わらず、市民の健康増進やスポーツ振興に寄与する。					持続可能な「住み続けたいまち」 移住・定住人口の確保 市民活躍する都市の実現 文化や芸術、スポーツに 親しむことができる環境が身近にある 文化芸術を 身近に感じる環境 スポーツを日ごろ から親しむ環境 読書を共に 触れ合う環境	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・歴史資料・絵画展示支援事業（委託料等） 19,870千円 歴史的絵画の修復、資料館の展示設計・造作、解説パネル作成および展示用備品の整備。 ○拠点整備事業 ・曾根グラウンド拠点整備事業（施設整備） 78,102千円 トイレ・倉庫の建築設計、フェンス・駐車場等の整備および諸経費を含むグラウンドの機能強化。						
主なKPI	①転出入者数（転入者数－転出者数）（+80人） ②文化や芸術、スポーツに親しむことができる環境が身近にあると感じる市民の割合（+12%） ③市主催の文化振興事業年間参加者数（+40人） ④曾根グラウンド年間利用者数（+37,000人） ⑤電子書籍利用者年間延べ人数（+2,100人） ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	（交付金の具体的使途・実施体制） https://www.city.itoshima.lg.jp/s005/010/010/020/070/01/20210326164242.html （効果検証） 令和8年6月下旬公表予定

申請者	福岡県糸島市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	20,756千円 (9,206千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	本市では、就職期にあたる20歳代において一貫して転出超過が続いており、将来的な人口構造の安定や地域活力の維持に向けた重要な課題となっている。特に、女性の活躍は持続的なまちづくりに不可欠であることから、女性活躍の視点を踏まえた戦略的な対応が必要であるため、就労環境の整備や、出産・子育てとの両立支援、キャリア形成支援等を総合的に推進し、就職期女性の定着促進と地域全体の活力向上を図るものである。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 女性の活躍を後押しするための取組は、男女共同参画の推進や女性の人権問題への対応など多岐にわたる内容となるが、本事業では総花的な取組ではなく、「女性が職場で輝き、自分らしく働ける糸島」を目指す姿として掲げる。本事業において3つの柱を設定し、それぞれの柱に基づいた具体的な取組を展開していく。 【3つの柱】 ●情報発信・イメージ戦略 ●環境の整備 ●“自分らしく働く、活躍する”を実現するための支援						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・一元的な情報発信ツール及びPRコンテンツの作成（委託料）6,000千円（備品購入費）50千円 ・女性活躍の推進に向けた現状把握のための調査（委託料）1,530千円 ・女性活躍を促進する講座等の開催及び官民連携プラットフォームの設置（委託料等）1,626千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①就職期にある女性（20代）人口に占める転出者の割合（▲1%） ②女性が活躍できるまちだと思ふ市内女性の割合（＋10%） ③女性が活躍できる環境が整っていると思ふ市内女性の割合（＋10%） ④女性が活躍するための支援が充実していると思ふ市内女性の割合（＋10%） ⑤女性活躍セミナー等への参加者数（＋55人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.itoshima.lg.jp/s005/010/010/020/070/01/20210326164242.html

事業概要：いとしま“食で元気”プロジェクト

新規

申請者	福岡県糸島市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	14,537千円 (4,199千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	市民が健康的な食生活を自然に選択できる環境を整えると同時に、その選択を支える基盤として地域産の農林水産物を提供する直売所の機能を強化し、生産者・事業者・消費者が連携した地域内経済循環を確立することを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ①いとしまミール推進プロジェクト事業 市民が自然に健康的な食事を選択できるような環境づくりに取り組む。 ▶市民の健康寿命の延伸 ▶医療費の抑制、生活の質の向上 ②直売所魅力向上・地域経済循環促進事業 市民の健康的な食生活を支える“供給拠点”である直売所の強化を図る。 ▶直売所の魅力と利用価値の向上						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・健康測定機器借上料 440千円 ・塩分測定器など機器購入費 742千円 ・直売所の設備更新、機能強化支援（補助金） 1,500千円 ・直売所集客イベント支援（補助金） 700千円						
主なKPI	①市内直売所の売上額（+0.5億円） ②いとしまミール推進プロジェクト協力事業所数（+45か所） ③ふくおか健康ポイントアプリ累計登録者数（+689人） ④特定健康診査（糸島市国保）受診率（+6%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.itoshima.lg.jp/s005/010/010/020/070/01/20210326164242.html

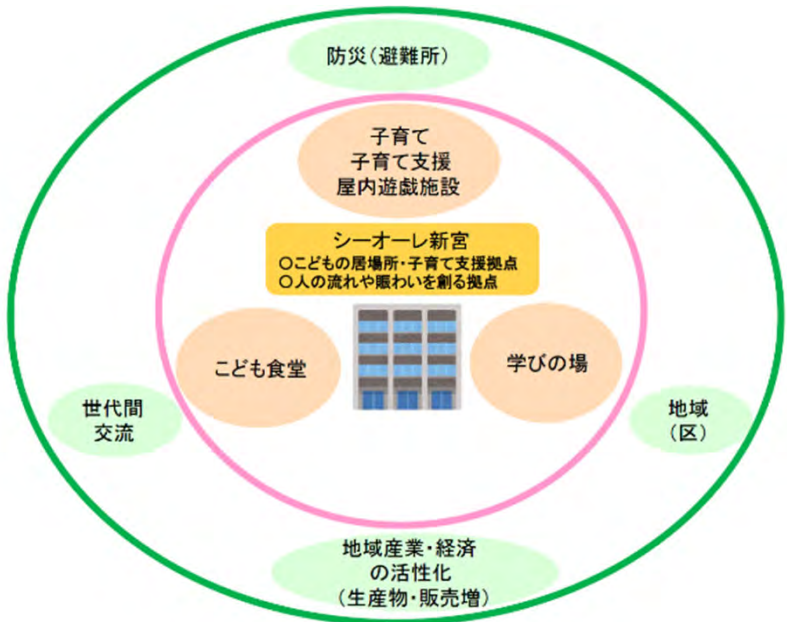
申請者	福岡県糸島市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	285,936千円 (53,929千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・「アートの森づくり」を核に、市民が文化芸術に触れ、豊かな感性と創造性を育む環境を創出する。 ・「人づくり」「拠点づくり」「仕組みづくり」を総合的に展開し、持続可能な文化芸術活動を通じて地域活力を高める。 ・多様な主体が参画するアート活動で交流人口を増やし、地域経済を活性化させ、「若者・女性に選ばれるまち」の実現と地方創生を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・糸島市の文化芸術推進計画に基づき「アートの森づくり事業」を展開。 ・「人づくり」：文化芸術の体験機会を創出し人材育成をソフト面で支援する。 ・「拠点づくり」：主要拠点を整備し、安全・快適な活動・鑑賞環境を整備する。 ・「仕組みづくり」：中間組織を設立し、財源確保で持続可能運営を確立する。					  アートがあふれるまちのイメージ	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・仕組みづくりに向けた調査研究事業(委託料)2,000千円 ○拠点整備事業 ・伊都文化会館 音響設備等機能強化事業（設計監理委託料）10,582千円 ・伊都文化会館 施設充実改修事業（設計監理委託料）7,066千円、（工事費）5,652千円 ・伊都郷土美術館 施設充実改修事業（建築物整備工事費）2,890千円、（設備整備工事費）30千円 ・用地造成 前原中央公園駐車場 用地整備（工事費）17,431千円 ・伊都文化会館（備品整備費）7,628千円 ・伊都郷土美術館（備品整備費）650千円						
主なKPI	①市域における20代、30代（20～39歳）の人口比率（▲1.3%） ②観光入込客数（+275,000人） ③市主催文化事業年間参加者数（+148人） ④伊都文化会館年間来館者数（+700人） ⑤ボランティア登録者数（+40人） ⑥当該文化芸術事業の参加者アンケートでの事業に対する肯定的評価（+1%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.itoshima.lg.jp/s005/010/010/020/070/01/20210326164242.html

※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL

事業概要：ブランド力を活かした持続可能で豊かなまちづくり推進事業

新規

申請者	福岡県糸島市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	61,011千円 (32,731千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	本市は、全国的な知名度向上により一定の効果が見られる一方、過度な露出による関心の低下やリピーター率、市民の郷土への誇りの低下、観光地への来訪者集中による生活環境への影響、事業者収益の伸び悩みといった課題を抱えている。これらを踏まえ、今後は「住む人・訪れる人のすべてが豊かさを感じる糸島」をブランド戦略の基軸とし、市民を中心に据えたブランドの保全・育成と、観光の質の向上や事業者収益の拡大を通じた持続可能な地域づくりを推進する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 地域資源を再認識できる市民参加型イベントの実施や、若者・女性が主体的に関わるプロジェクトへの支援を通じ、多様な層が参画できる仕組みを整備する。本市ならではの価値や物語を整理し、独自性を明確化した上で効果的な情報発信を推進する。あわせて、地域住民の安全・安心な暮らしを守りつつ、観光客の受入体制の充実や地元産品の市内消費・販路拡大を図り、事業者支援や地産地消の促進を通じて、地域内経済循環の活性化を目指す。					目指す姿 3つの目標 住むひと、訪れるひとのすべてが「豊かさ」を感じる糸島 市民が誇りを持てるブランド (インナーブランディングへの注力) 魅力の本質をあらわすブランド (想起性の確立と心理的価値の最大化への注力) 稼ぐことができるブランド (稼ぐブランディングへの注力)	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・地元食材を使用した料理フェア及びレシピコンテスト（委託料）3,960千円 ・素材写真の撮影、首都圏プロモーション（委託料）3,352千円 ・地産地消マルシェ（委託料）1,826千円 ・観光客の動向及びニーズ等を把握するシステム構築（委託料）16,940千円 ・インバウンド消費の促進、受入体制の強化への支援（委託料）6,653千円						
主なKPI	①旅行消費額（+12.6億円） ②来訪者の満足度（±0.0%） ③観光客のリピーター率（+8.0%） ④市民が糸島市に抱く「自分のまち」としての愛着の度合い（+0.25点） ⑤市内直売所の売上高（+0.6億円）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.itoshima.lg.jp/s005/010/010/020/070/01/20210326164242.html

申請者	福岡県新宮町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	912,214千円 (565,573千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	こども家庭センター『はぐうる』を設置しているシーオーレ新宮に、天候に左右されずにこどもが気軽に遊べる屋内遊戯施設などの整備をすることで、子育て世帯の移住・定住促進や地域の産業・経済の活性化や成長を図る。 また、こどもの居場所・子育て支援を充実させ、様々な人の流れや賑わいを創る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 子育て支援、学び、多世代交流及び防災機能を備えた複合施設を新設し、こどもが天候や季節を問わず安心して遊べる屋内遊び場や、保育士等の専門家による子育て相談スペース、学習・交流スペースを整備する。また、子育て支援アプリ等のデジタル技術を活用した伴走型支援を実施するとともに、こども食堂や体験型教室の開催により世代間交流を促進する。さらに、自家発電機を設置し、防災拠点機能を強化することで、子育て世帯をはじめ幅広い世代が集い、学び、交流できる地域の拠点形成を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・建築物整備の内容 ・建築物本体工事 132,941千円 ・建物と不可分な設備工事 432,632千円						
主なKPI	①地域住民の消費金額（+13億1,400万円） ②子育て世帯及びこどもの社会増減数（+939人） ③平均日中滞在人口数（+1,043人）④施設利用者数（+23,900人） ⑤保健事業参加者数（+4,404人）⑥自治体加入率（+12.6%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月公表予定

事業概要：久山町観光交流ゾーン「ひさやまウェルネスパーク首羅の森」賑わい交流拠点整備事業

新規

申請者	福岡県久山町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	870,102千円 (369,690千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・ 独自性の高いコンテンツを活かしたブランディングや分かりやすい案内誘導を行い、分散する資源を集約する拠点を整備することで、来訪者の回遊性を高め、滞在時間や消費の拡大を図る。 ・ 観光交流ゾーンの拠点機能を活用し、「生産・加工・発信・体験・販売」の場を一体的に整備することで、町産品の付加価値向上と販路開拓を効果的に推進する。 ・ スマート農業の実証や生産ノウハウの可視化、体験農園の活用により担い手育成を進め、安定した生産体制と品質確保を支え、地場産業の持続性を高める。 ・ 商工会等と連携し、チャレンジショップやワークショップを通じて商品開発やPRを行い、販路開拓のノウハウとネットワークを蓄積し、地域経済の拡大と外貨獲得につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 久山町観光交流ゾーンのゲート施設として、総合案内・展示機能、飲食・加工品販売・交流機能及び体験農園機能を備えた「賑わい交流拠点」を新設する。併せて、カフェ、物販・加工販売スペース、キッチン付きワークショップスペース、デジタルサイネージ等を整備し、自然・歴史・農業・健康を生かした体験プログラムを展開する。これにより、観光交流人口の拡大、町内回遊の促進、地場産品の販路拡大、新規就農者の育成及び地域内経済循環の構築を図る。						

申請者	福岡県芦屋町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	232,961千円 (232,961千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・令和8年度中に開業予定である「芦屋港ボートパーク」の整備に伴い、隣接するエリアへ交流施設・広場等の整備を行うことで、滞在時間の確保を図り、交流人口の拡大を目指す。 ・地元事業者や団体が海洋性レジャー等の観光事業を実施する機会を提供することで、地域の消費拡大に寄与する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 芦屋港ボートパークに隣接するエリアに、来訪者の受入れや学習・体験機能を備えた交流施設を新設するとともに、芝生広場及びプロムナードを整備する。あわせて、海洋性レジャーや自然体験、体験学習プログラムを実施し、港湾施設や地域資源の魅力を発信することで、来訪者の滞在時間の延長や地域内回遊を促進する。また、地元事業者によるサービス提供やイベント開催を通じて消費拡大を図り、地域経済の活性化につなげる。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・芦屋港ボートパーク賑わい創出企画運営事業 500千円 ・港湾施設認知向上・情報発信事業（自主財源） 0千円 ○拠点整備事業 ・芦屋港ボートパーク交流エリア整備工事 建築物整備 139,096千円 設備整備 90,710千円 備品経費 2,655千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額（＋34,000千円） ②芦屋港・ボートパーク周辺エリアの来訪者数（＋6,800人） ③学習・体験プログラム参加者数（＋370人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.ashiya.lg.jp/site/ashiyamachisougousenryakuoyobijin/koubijyon/1785.html

事業概要：特産品「水巻のでかにんにく」の高収益化及び次世代担い手支援事業

継続

申請者	福岡県水巻町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	17,950千円 (4,200千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	次世代に選ばれる稼げる農業を構築し、農地保全に資する担い手を確保する。 安定した特産品の生産体制を構築することで、地域関連産業の活性化・町のPRを促進する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 市場調査の結果、水巻町特産品「水巻のでかにんにく」に対して小売り・中食・外食等産業からの一定の需要が求められていることが判明したため、推進主体である「水巻のでかにんにく協議会」を中心として、地域全体で新たな販路開拓に向けた取り組みを推進するとともに、市場のニーズに合った加工品開発・生産パートナーの確保のほか、地域の飲食店でのメニュー化のためのレシピ開発を行い、地域活性化を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・市場調査・プロモーション事業（委託費）3,200千円 ・展示商談会出展料・交通費（手数料）1,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①納品量（+10,400kg） ②納品額（+100円/kg） ③新規販路数（+15カ所） ④先進地視察回数（+2回）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和9年3月公表予定

事業概要：買い物×居場所×災害備えにより
村の暮らしに未来を灯す生活支援拠点創造プロジェクト

継続

申請者	福岡県東峰村					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	206,012千円 (26,746千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	人口減少や度重なる豪雨被災等の複合的要因により、暮らしの維持が困難になりつつある本村において、生活に不可欠な物販機能、コミュニティ機能、生活利便機能を併せ持った「生活支援拠点」を整備する。平時には買い物とコミュニティ維持、豪雨等の有事には物資供給として機能することで、村民の毎日の暮らしの維持と村で生きる希望となることを目指す。なお運営は、小さな拠点税制の活用により、村民出資型の運営会社を新設する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 村民の買い物環境の維持・向上を図るため、国道211号沿いに物販機能、地域コミュニティ機能及び生活利便機能を備えた生活支援拠点（母店）を新設するとともに、村内別敷地にサテライト拠点を新設する。あわせて、コミュニティスペース、銀行ATM、ランドリー、太陽光発電設備及び蓄電池等を整備し、平時の買い物支援や交流の場の創出に加え、災害時の物資供給拠点としての機能強化を図る。また、住民出資による運営会社を設立し、持続可能な運営体制を構築する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・会社組成・開業支援 運営計画精査、拠点づくりのへの伴走支援（委託料）等 10,895千円 ○拠点整備事業 ・建築物整備（サテライト）設計業務等 4,268千円 ・生活支援拠点、コミュニティスペースの備品整備 11,583千円						
主なKPI	①村内の小学生＋中学生の人数（▲15.0%） ②買い物環境を不便に感じる人の割合(高齢者)（▲－7.9%） ③施設利用者数（18.2万人/年） ④店舗売上（16,425万円/年）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和9年1月公表予定

事業概要：ネイティブテキスタイル産地プロジェクト

継続

申請者	福岡県広川町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	101,700千円 (32,570千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	広川町特産の綿織物「久留米絣」のほか、筑後地域に残る「八女すだれ」や「八女和紙」、い草を織り上げる「ござ」等の手工芸品が持つ価値と魅力を世界に広め、クリエイティブ人材を世界中から引き寄せ、また新たな「もの」と「文化」を創り出しながら、地域経済の活性化と持続可能な社会の実現を目指すもの。加えて、未来の担い手となる町内の小中学生向けのプログラムも強化することで、文化の継承と新たな人材の獲得も目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 滞在制作拠点の構築による新プロダクト創出とWeb等での世界発信、海外展示会出展を通じたデザイナー等の誘致を推進する。併せて、小中学生への文化継承と人材育成を実施することで産地の誇りを醸成。これらの取組により、将来の担い手確保とブランド力の向上を図り、地域経済の活性化と地方創生の加速を実現する。					ネイティブテキスタイル 「産業＝工業」から「産業＝文化」へ ここでしか作れない「もの」 この土地に過去から紡がれた固有性 1. ネイティブテキスタイル・ラボラトリー構築事業 コラボレーターや大学の滞在制作活動を誘致し、新プロダクトを創出する。ネイティブテキスタイルについて、海外に発信するWebサイトを構築し、世界中に伝達者を増やす。 2. 海外プロモーション事業 海外の展示会にネイティブテキスタイルを出展し、評価を高める。また、魅力に触れた海外のデザイナーやコラボレーターをラボラトリーに誘導する。 3. 小中学生向け人材育成事業 ネイティブテキスタイルの持つ価値と魅力を伝え、産地の文化を継承するとともに地域に誇りを持つ、未来の担い手を育成する。	
	【R8年度事業 経費内訳】 ・ネイティブテキスタイル・ラボ構築事業（委託料等） 20,270千円 ラボおよび協議会の運営支援、コラボレーター誘致、新プロダクト創出支援。 ・海外プロモーション事業（負担金等） 10,050千円 海外展示会への出展企画、スタッフ派遣旅費、町長によるトップセールス旅費。 ・小中学生向け人材育成事業（負担金） 2,250千円 次世代の担い手育成を目的とした、産地の文化継承プログラムの企画運営。						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①海外市場での商談成立数（＋30件） ②本事業を通じての売上額（＋186,000千円） ③視察人数（クリエイター、事業者）（＋1,450人） ④新規取引問い合わせ件数（海外）（＋475件） ⑤小中学生のイベント参加数（＋530人） ⑥小中学生の域外での発表件数（＋86人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月公表予定

事業概要：こどもまんなか社会の実現と広川サイクルの促進に向けたDX型地域共創・経済活性化事業

新規

申請者	福岡県広川町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	172,982千円 (66,372千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	【目的】こども・子育て世代等の町民ニーズが継続的に顕在化し、そのニーズに応える事業等が民間主体によって自発的に提供され、それを受けてまた新たなニーズが顕在化するという好循環を生み出す仕組みを構築することで、地域経済の維持・拡大につなげる。 【効果】「広川サイクル」（町を離れても故郷に戻り、次の世代を育てる人材育成の好循環）が進み、人口減少社会にあっても活力を失わず、こどもの主体性が育まれ、若い世代が安心して働き、暮らし続けられる地域をつくる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 子育て世代等のニーズ把握と情報共有を行うプラットフォームを構築し、事業者の新規事業創出に向けた伴走支援や地域資源の提供を実施する。併せてデジタルマップや移動手段等の整備による利便性向上と広報を推進。関係人口の拡大や成功事例の創出を通じ、ヒト・モノ・カネが循環する地域経済の好循環を生み出し、地方創生を加速する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ・こどもまんなかDXインフラ整備事業（委託料等） 38,272千円 情報プラットフォーム、デジタルマップ、各種アプリ等の開発および実装。 ・マッチング・サービス創出・支援事業（委託料等） 28,100千円 町内ニーズのプロジェクト化、共創企業の募集、および新規事業の立ち上げ支援。						
主なKPI	①広川町人口の減少率（▲1.2%以内） ②大人になって広川町に住みたくないと回答する子どもの割合（24%以下） ③町内勤労者(49歳以下)の所得上昇率（101.2%以上） ④町内勤労者(49歳以下)の課税対象者人数（5,980人以上） ⑤DXインフラを活用して、既存の事業の変更や新規事業の立ち上げ、起業をした事業者数（8者） ⑥こどもまんなかアプリケーション、こどもまんなか掲示板の延べ利用数（町外の事業者によるものを含む。）（6,200件）					URL	令和8年6月公表予定

事業概要：香春町子育て支援施設「かばる」整備事業

継続

申請者	福岡県香春町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	224,033千円 (2,949千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	廃校となった旧香春小学校に、1年を通じて天候に左右されず、親子で遊ぶことができる屋内遊戯場や保護者が集い交流や学ぶことができる会議室やランチスペース、気軽に専門家に相談できる相談室などを整備。子育て世代を香春町に呼び込むきっかけとなる施設を整備することで、子育て世代の移住・定住につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本施設を含めた香春町の子育て施策をまとめたPR冊子及びチラシの作成、近隣市町村や移住支援金の交付対象である3大都市圏（東京・名古屋・大阪）において、子育て世代を対象とした移住イベントを開催し、子育てのしやすい「香春町」をPRする。 また、整備した施設や町内においてイベントやセミナーを開催、イベントに必要な備品・什器を購入し内容を充実させることで、実際に近隣の子育て世代に町へ来てもらうことにより、若い世代の移住へと繋げる。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・子育て世代に向けたPR事業 ・PR冊子及びチラシの印刷代等 449千円 ・PRイベント開催 1,500千円 ・子育て支援施設「かばる」備品購入事業 ・イベント等に使用する遊具及び什器購入費 1,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域の転入者数（+60人） ②年間施設利用者数（+6,500人） ③年少人口(0～14歳)の社会増減数（+6人） ④本施設利用に満足と答えた人の割合（+100%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.kawara.fukuoka.jp/s008/info/020/atrasitihoukeizai_seikatukannkyou/20250421111325.html

事業概要：香春町お試し居住施設「香春ん家（かわらんち）」整備運営事業

継続

申請者	福岡県香春町						初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	18,985千円 (5,716千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業			
目的・効果	地域資源である空き家を改修し、移住後の香春町での生活をよりリアルに体験できるお試し居住施設を整備することで、本町へ子育て世帯の移住・定住につなげることを目的とする。また、空き家を活用することで、危険空き家発生の抑制や多くの人々が交流することで地域の活気を取り戻し、活力ある地域の再生へつなげる。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 香春町への移住をよりリアルに体験するため、既存の空き家が持つ機能を大きく超えたフルリノベーション等は行わず、空き家が持つ機能や経年劣化を生かした改修とする。「都市部にはない近所付き合い」などを体験し、地域の価値を知ることが目的としており、事業運営及びプロモーションなどを継続的に行っていく。 ※本計画で整備する施設は、民間が所有する空き家です。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・使用料：施設使用料 2,400千円 ・委託料：お試し居住施設管理運営業務委託 2,966千円 ・PR事業費：広告宣伝費 200千円、広告物製作費 150千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域へのUIターン人数（+60人） ②本施設を利用して移住した人数（+16人） ③施設利用者数〈年間〉（+920人） ④施設利用者で「再訪意向」「移住検討の継続意向」を答えた割合（90%） ⑤施設の宿泊稼働率（25%）						URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.kawara.fukuoka.jp/s008/info/020/atrasitihoukeizai_seikatukannkyou/20250421111325.html

事業概要：来て見て、住んで春香町へ。
旧香春小学校を活用した秋月街道沿い旧商店街賑わい再生事業

継続

申請者	福岡県香春町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	893,773千円 (826,751千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	チャレンジショップ及び遊具を備えたイベント広場を整備することにより、町の中心地である旧香春小学校周辺の賑わいの復活させ、将来的には秋月街道沿い旧商店街の賑わいを再生を目指すものである。 チャレンジショップを整備することにより、若い世代の創業のハードルを下げ、町内の経済の活性化に繋がるとともに、その整備場所をコワーキングスペースや保育園・子育て支援施設等がある旧香春小とすることで、若い世代の移住・定住を促進していく。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 廃校及び廃園となった旧香春小学校・旧香春保育園跡地に、チャレンジショップ及び遊具を備えたイベント広場、周辺道路を整備する。また、施設の運営主体の設立を支援、マルシェ等のイベントを実施する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・商店街賑わい再生ソフト事業（委託料等） 18,892千円 運営主体の設立、チャレンジショップや空き家活用への出店支援、公共交通拡充。 ○拠点整備事業 ・チャレンジショップ・広場整備事業（施設整備） 772,859千円 旧小学校跡地におけるチャレンジショップおよびイベント広場の建築・造成・備品整備。 ○インフラ整備事業 ・周辺道路インフラ整備事業（工事費） 35,000千円 交通量増加に対応するための、旧香春小学校周辺道路の拡幅整備						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域の転入者数(+70人) ②チャレンジショップの利用者数(+30,500人) ③事業を通じた新規開業数(+16件) ④事業を通じて新規で空き家・空き地情報バンクに登録された空き店舗件数(+21件)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.kawara.fukuoka.jp/s008/info/020/atrasitihoukeizai_seikatukannkyou/20250421111325.html

事業概要：子育て世代の移住定住に向けた香春町シティプロモーション事業

新規

申請者	福岡県香春町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	25,545千円 (5,545千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	SNSを中心とした香春町の情報発信力を強化し、子育て支援施策を核とした“暮らしのブランド化”を推進することで、「子育て世代に選ばれるまち香春町」の実現を目指す。メガアカウントの設立・運用や関連イベントの実施、学校と連携した情報発信により関係人口を創出・拡大するとともに、町の魅力や地場産業、観光資源の価値を効果的に発信することで、来町者や移住者の増加、地域消費の拡大、地場産品の付加価値向上を通じた地域経済の活性化につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本町のメガアカウントの開設、SNS運用体制整備、マーケティング設計、投稿フォーマット化で土台を作りを行う。 町内の学校（香春思永館及び高校）でのSNS・情報リテラシー講座を開催、教育現場のSNSに対する「不安」取り除くことで、2年目以降の中高生によるまちの魅力発信に繋げる。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・香春町SNS運用支援事業 4,060千円 運用体制の整備、メガアカウントの設立及び伴走支援、子育て支援施設「かばる」のアカウントにおける投稿支援、学生との連携支援、事業の評価・改善など ・SNS・情報リテラシー向上事業 1,485千円 講演会の開催、動画作成（動画教育）						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域の転入者数（+10人） ②メガアカウント単体のフォロワー数（+2,240人） ③アカウント間誘導件数（+720件） ④学生と連携した投稿回数（+36回）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.kawara.fukuoka.jp/s008/info/020/atrasitiho ukeizai_seikatukannkyou/20250421111325.html

事業概要：川崎町道の駅を核とした 多世代が出会い、つながり、交流する
～くらしの真ん中「まちのリビング」創出事業～

旧制度（拠点）

申請者	福岡県川崎町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R10年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	930,405千円 (3,312千円)
事業タイプ・類型	地方創生拠点整備タイプ	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	本町の中心を通っている国道322号バイパス沿いに、道の駅の一部として全天候型屋内遊戯施設等の機能をもった多世代交流施設を整備し、子育て環境の充実を図り、子育て世代のさらなる転入を促すとともに、町内経済の活性化と若い世代に魅力的な雇用創出、UIターンの促進、移住定住の促進、町の魅力を高めるプロジェクト等を積極的に推進し、地域の人口、地域の世帯数の増加を図る。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 【整備内容・利活用方策】 道の駅において、全天候型屋内遊具施設を建設するものである。本町では、様々な子育て支援施策を実施しているが上手く情報を発信できていない状況であり、本施設を子育ての情報発信拠点に位置づけ、デジタルサイネージ等のデジタル技術を活用し、子育て支援施策を直接利用していない世代や町外者へ向けて広く情報発信を行う。		 ※実施設計中のものであり、変更する場合があります。
	【R8年度事業 経費内訳】 整備工事（造成工事） 3,312千円 建物の建築に向けて、整備工事（造成工事及び建築工事）を行い、敷地の造成工事を行う。		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①地域の人口数（+32人） ②年間来場者数（+95,000人） ③交流人口数（+80,000人） ④年少人口（0～14歳）の社会増減数（+9人）		URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL 令和8年10月公表予定

事業概要：道の駅を核としたまちの賑わい創出事業

継続

申請者	福岡県川崎町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R7-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,224,379千円 (336,411千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・「パン」をテーマとした道の駅の開業を通じて、生産体制および販売体制の再構築を進め、生産者や事業者が生産に専念しながら所得向上を図ることができる仕組みを形成し、生産性・市場性の高い持続可能な農業の確立を目指す。 ・地域の農産物を活用したレストランやパン工房を整備するとともに、農業者、商工業者、地元の学校等が連携して特産品開発に取り組み、商品・サービスを通じた地域ブランド力の向上と地域経済の活性化を図る。 ・道の駅を核として交流と消費の拠点を形成し、交流人口の拡大を図るとともに、子育て世代や若者が住みやすく、高齢者が安心して暮らせる環境整備を進め、まちの賑わい創出につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 道の駅を開業するにあたり、運営戦略、マーケティング・ブランディングにおいて専門家を活用し、持続的で収益性の高い施設運営を目指す。また、生産者支援、特産品の開発、デジタルを活用した販路の拡大等を図り、農業生産の拡大と六次化の推進を行う。さらに健康教室等を通じて地域の賑わいを創出し、SNSや動画コンテンツによる地域資源の発信や着地型観光商品の造成により交流人口の増加を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 ・道の駅運営基本戦略策定等に関する事業 31,000千円 ・農業生産拡大事業 18,080千円 ・賑わい創出事業 10,200千円 ○拠点整備事業経費 ・道の駅賑わい創出施設（用地造成）125,131千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①農業産出額の増（+4,000万円） ②新規就農者数（+5人） ③新たな特産品開発等による新規雇用（+10人） ④転出超過数（▲28人） ⑤観光入込客数の増加（+219千人） ⑥創業支援事業利用件数（+6件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年10月公表予定

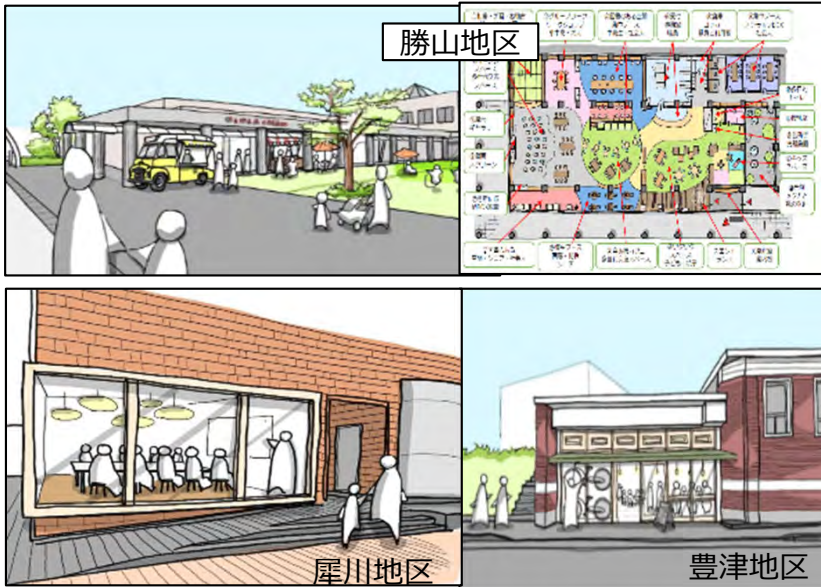
事業概要：地域活性化の核となる多目的アリーナ建設事業

継続

申請者	福岡県福智町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,000,000千円 (49,600千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	現在、本町では旧町単位で設置された老朽化の進む3つの体育館を統合した総合体育館新設を計画している。 この体育館にプロバレーボールリーグであるVリーグ基準に対応した機能を追加し、Vリーグ公式戦のみならず、多彩なスポーツの公式大会や大規模屋内イベント等が開催可能である多目的アリーナとすることで、本町にとどまらない広域的なスポーツ振興に加え、観光・産業分野への好循環サイクル構築を図り、町に新しい人の流れを作る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 新設する体育館は最大3面の同時利用（最大 バスケットコート2面、バレーコート1面）を想定している。また通常の機能に加え、ホームタウン協定を結ぶVリーグ所属の女子プロバレーボールチーム「カノアラウレアーズ福岡」のホームアリーナとしての機能を満たす規模とする。 このVリーグ基準を満たすことにより、音響・空調・観覧席（2,000席）に加え、大型ビジョンやTV配信対応の通信設備を備えた多機能施設となる。これによりプロスポーツ興行だけでなく、大規模なパブリックビューイングやオンライン講演、コンサートなど、これまで町内で実施されてこなかった新しい活用が期待できる。					   	
	【R8年度事業 経費内訳】 ・建築物本体工事（施設整備） 2,428,820千円 ・電気・機械・昇降機等設備工事 1,162,980千円 電気、機械、昇降機、および屋外トイレ工事を含む。 ・諸経費・消費税 1,563,900千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①人口の社会動態（+350人） ②年間施設利用者数（+25,443人） ③年間施設利用料（+11,800千円） ④公式大会・興行等の誘致回数（+24回） ⑤町内の新規創業者数（+45者）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.fukuchi.lg.jp/soshiki/machi/seisakusuishin/jigyoinfo/4231.html

事業概要：まちづくりグランドデザインリーディング事業：「はぐくみ、はぐくまれるまち」の実現に向けた世代を超えてつながる、まちづくりの未来をつくる居場所づくり事業

継続

申請者	福岡県みやこ町					初回採択回	令和7年度第2回募集	
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	197,757千円 (77,775千円)	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	地域ごとの課題や資源に応じた交流拠点を整備・活用することで、住民同士のつながりや地域コミュニティの再生を促進し、こうした取り組みを通じて、地域課題に対する住民の当事者意識を醸成し、自発的な地域活動の土壌を育てていきます。 人と人とのつながりを生み出す場が形成することで、交流人口の拡大や将来的な定住促進にもつながり、加えて、行政が単独で担うのではなく、住民・民間・行政が協働する体制づくりを通じて、持続可能なまちづくりの実現を目指します。							
事業概要・主な経費	【事業概要】 まちづくりグランドデザインリーディング事業として位置づけられている旧町3地域ごとの課題や資源に応じた既存施設を活用した交流拠点を整備するとともに、住民・民間・行政が協働する体制づくりを目指す。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・創業、起業等商店街活性化を目指した犀川地区「NEXTチャレンジャーPROJECT」(委託料) 3,000千円 ・多世代の居場所づくり及び地域主体の運営を目指す勝山地区「みんなのWORKSPACE PROJECT」(委託料) 3,000千円 ・学生が主体となって地域と共にまちづくりを目指す豊津地区「TEENS PROJECT」(委託料) 4,000千円 ○拠点整備事業 ・勝山地区の拠点総合文化センターの施設整備費 67,775千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①転出入者数(社会増減の均衡) (+130人) ②拠点でのイベント回数 (+65回) ③起業相談件数 (+125件) ④利用者アンケートによる満足度 (+100%) ⑤活動に参画した学生数 (+100人) ⑥拠点利用者数 (+2,070人)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	http://www.town.miyako.lg.jp/koushitsu/seisaku/chihouseisei/chihouseiseijigyou.html	

事業概要：みやこ町シティプロモーション事業

新規

申請者	福岡県みやこ町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	60,000千円 (20,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	観光振興と情報発信を起点に、「興味を持たれ、訪れ、関わり続けたい地域」を目指し、交流人口・関係人口の創出を通じて地域の活力向上を図る。SNSや生成AIを活用した情報発信基盤の整備と人材育成により、観光資源に加え、地場産業や事業者の取組、ものづくりの魅力やストーリーを効果的に発信し、来訪促進や地場製品の販路拡大、体験型消費の創出につなげる。また、育成した人材が主体となる持続的な情報発信体制を構築し、地域内経済循環の強化を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 情報発信力の基盤を整備し、国内外に向けた認知と共感の形成を図り、関心を持った人々を実際の来訪や地域活動への参加につなげるとともに、それを支える人材育成を進める。					動画作成  町の魅力発信  町の様々な媒体を活用して 情報発信 交流人口・ 関係人口創出 情報発信連携・ 人材育成 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・情報発信経費（委託費）8,000千円 ・PR戦略アドバイザー、SNSアドバイザー（委託費）2,000千円 ・イベント開催経費（委託料）8,000千円 ・講習会開催経費 300千円 ・PRのためのトップセールス旅費 200千円						
主なKPI	①観光消費額（+60百万円） ②SNS登録者、フォロワー数（+900人） ③観光入込客数（+30万人） ④人材育成数（+120人） ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	http://www.town.miyako.lg.jp/koushitsu/seisaku/chihouseisei/chihouseuseijigyou.html

事業概要：文化交流センターを核とした学びと交流の拠点形成・回遊性向上事業

新規

申請者	福岡県みやこ町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R11年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	218,510千円 (65,200千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	文化交流センターを核に、図書館や博物館、教育施設を結ぶ外構・導線を整備し、豊津地区を安全で快適に回遊できる「学びと交流の拠点」として一体的に形成する。これにより、住民や来訪者の滞在・交流を促進し、子どもの居場所づくりや地域コミュニティの再生を図るとともに、イベント開催や地場産業との連携機会を拡大することで消費喚起と人の流れを生み出し、関係人口の創出および地域経済の活性化につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 文化交流センターを核とし、外構・駐車場および公共施設間を結ぶ導線を整備し、回遊性と利便性の向上を図る。あわせて、交流・滞在機能を高めることで、地域コミュニティの活性化、関係人口の創出および地場産業を含む地域経済への波及効果を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・文化交流センター外構工事 55,479千円 ・文化交流センター駐車場兼多目的広場設計 9,721千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光消費額（豊津地区）（+3億円） ②観光入込客数（豊津地区）（+15万人） ③文化交流・関連イベント実施数（+10回） ④施設来館者（+10万人） ⑤地域、地場事業者の参画件数（+10件） ⑥施設間回遊率（+80%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	http://www.town.miyako.lg.jp/koushitsu/seisaku/chihouseusei/chihouseuseijigyou.html

事業概要：小さな町の居心地の良い空間から広がる
まち・ひと・しごと創生事業ー明るい未来へー

継続

申請者	福岡県吉富町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,029,500千円 (96,500千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	コンパクトな町の良さを最大限、活かすため、世代を超えた町民同士の交流、さらには町外・県外・国外も含めた多様な交流を支援することができる、複合的な性質や機能を持った多世代交流型複合施設の拠点整備を行い、シビックプライドを醸成する。また、拠点を起点とした地域の多様な主体の参画により、新たな笑顔あふれるイベント企画や交流人口・関係人口が増加する。さらには増加傾向の空家等を活用した創業支援をすることで、若者・女性が働きやすい環境づくりを行うとともに「創業しやすいまち」から「起業したくなるまち」へと、さらなる認知度を向上させ、若年層の転出に歯止めをかける新たな町の循環型モデルを目指す。併せて、小さな町の多様な世代の居心地の良い空間から広がる幸せで笑顔が絶えない持続可能なまちづくりを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・まちづくり会社の安定的な事業展開・新たな事業拡大 ・チャレンジショップ事業において更なる誘客・町の取組みPR・創業者の掘り起こし等を行う ・新たなイベント企画により、子どもから高齢者まで特に若者・女性を集客し若年層の流出を防ぐ ・複合的な性質や機能を持った新たな拠点として多世代交流型複合施設を整備し、シビックプライドを醸成する						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 ・まちづくり会社と地場企業の連携による地域づくり事業 新たなまちづくり活性化事業（助成金）2,000千円 ・若者・女性が働きやすい環境創生事業 笑顔あふれるイベント企画（委託料）5,500千円 ○拠点整備事業経費 ・町のシビックエリアに多世代交流型複合施設の整備 施設整備実施設計（委託料）89,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①空家等活用の町内新規創業者数（累計）（+15人） ②関係人口者数（累計）（+225,000人） ③合計特殊出生率（+0.18%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和9年3月公表予定